

The Graduate School of
Osaka University of
Human Sciences

大阪人間科学大学
大学院 人間科学研究科 2019

公認心理師
(心理学専門職コース)

リカレント・研究
(心理学総合コース)



学校法人 薫英学園

大阪人間科学大学

大学院 人間科学研究科

■ ■ 大阪人間科学大学 大学院 人間科学研究科 ■ ■

大阪人間科学大学 大学院では、人びとが心身の健康に向けた力を十分に発揮し、より良い人生を目指すことができるように、健康に関する科学研究とその成果を実践に活かすことができる専門家の育成を目的としています。

本大学院の特色は、心理学専門職の国家資格である公認心理師を目指す『**心理学専門職コース**』と、これまで培ってきた専門領域をより発展させるためのリカレント教育や心理学の学術的探求を行う『**心理学総合コース**』の2つのコースにあります。これらのコースによって、大学院生個人の成長のみならず社会全域の発展についても貢献しうる教育の充実化を図っています。

大学院 人間科学研究科

心理学専門職コース

臨床現場における
高度な知識と技術を持った
公認心理師を目指す

心理学総合コース

対人援助に関する
スキルアップや心理学における
研究者を目指す

Admission policy 本研究科が求める人物像

1. 心理学に関連する基礎知識と十分な基礎学力及び社会人基礎力をそなえている者。
2. 人びとの健康の回復、維持、そしてその増進に寄与する志向を持つ者。
3. 研究を実践に活用して社会に貢献する意欲を有している者。

心理学 専門職 コース



POINT

※公認心理師国家試験を受験するためには、卒業した大学において公認心理師受験資格取得に必要とされる学部科目を修めておく必要があります。必要な学部科目の履修状況については、卒業したあるいは卒業する大学に確認してください。

- 悩める人たちの支援を行う心理専門職である**公認心理師受験資格者**の養成を行うことを目的としたコースです。
- 心理カウンセリングの技法はもとより認知行動療法、応用行動分析、ストレスカウンセリング、解決志向アプローチなどセラピーに通じた心理学について幅広くそして深く学びます。
- 公認心理師受験資格に関心を持つ人をサポートする教育を行います。



公認心理師が活躍する領域は数多くあります。

- スクールカウンセラー ● 病院の心理カウンセラー ● 会社の心理相談員 ● 児童相談所や福祉施設の心理職
- 家庭裁判所調査官 ● 少年鑑別所や拘置所などの心理技官 ● 警察の相談員 など

開講科目一覧 (公認心理師受験資格取得に必要な科目)

※カリキュラムは変更になる場合があります。

心理実践科目

- 保健医療分野に関する理論と支援の展開 ● 福祉分野に関する理論と支援の展開 ● 教育分野に関する理論と支援の展開
- 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 ● 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 ● 心理的アセスメントに関する理論と実践
- 心理支援に関する理論と実践 ● 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 ● 心の健康教育に関する理論と実践

実習科目

- 心理実践実習

研究演習科目

- 人間科学研究演習Ⅰ ● 人間科学研究演習Ⅱ

- 心理学、医療、教育などにおいて、心身の健康に関連する仕事に従事している人や、これから専門の業務に進もうとする人に対するリカレント教育の場を提供します。
- 大学で学んだ心理学や他の行動科学の研究を深めることもできます。
- 看護師、保健師、教員、その他人びとの健康に関連する現場において、対人援助の更なるスキルアップを目指す人、心理学の研究を継続したい人への教育を行います。

修了後の進路

- 医療・保健・教育現場における看護師 ●公的施設における社会福祉職 ●企業におけるメンタルヘルス担当者
- コミュニティにおける相談業務職など高度な対人援助職 ●健康分野における研究者

開講科目一覧

※カリキュラムは変更になる場合があります。

特論科目

- 精神医学特論 ●社会福祉学特論 ●応用行動分析学特論

特殊講義科目

- 人間科学特殊講義Ⅰ ●人間科学特殊講義Ⅱ

演習科目

- 心理学研究法演習 ●行動観察・分析法演習 ●ソーシャルリサーチ演習 ●多変量解析法演習 ●質的研究演習

実習科目

- 健康心理カウンセリング実習 ●健康心理アセスメント実習

研究演習科目

- 人間科学研究演習Ⅰ ●人間科学研究演習Ⅱ

一部公認心理師対応科目を受講することができます。



心理学
総合
コース



豊かな人間性と高い専門知識の修得を。

大阪人間科学大学は建学の精神「敬・信・愛」のもと、「人間とは何か」を原点に、平成13(2001)年に2学科から成る人間科学部をもって開学しました。平成24(2012)年には、社会福祉学科、健康心理学科に、新たに医療福祉学科、子ども福祉学科(平成29年4月名称変更:現・子ども保育学科)、医療心理学科の3学科を設置し、さらに平成28(2016)年4月には理学療法学科を開設し、6学科体制のもと、対人援助分野で活躍できる専門職業人の育成に特化した、より魅力のある大学へと生まれ変わりました。

この学部を基盤に平成18(2006)年に開設されたのが大学院人間科学研究科です。本研究科では、個々の生命体が、より健康でより活力に満ちた良い状態(ウェルビーイング)を創出するにはどうすれば良いのか、を積極的に問いかけ、心理学及び周辺の諸科学を学際的に総合しつつ、新しい人間科学の展開を図ることを目的としています。

長期履修制度の導入や、平成30(2018)年度からの公認心理師の資格取得に向けたカリキュラムの編成において、研究科の方向性を更に明確化し、人間科学における科学的知見と臨床の実践力を通して人びとの心身における健康の回復、維持、及び増進に寄与する、心豊かな高度専門職業人の育成に努めています。

学長 田中 保和

長期履修制度について 自分のペースで仕事と学習の両立を実現！

長期履修制度とは、職業を有するなどの事情により、年間に履修できる単位数や研究・学習活動に充てられる時間が限られているため、標準修業年限(2年)では大学院の教育課程の履修が困難な学生を対象に、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することにより、学位の取得を可能とする制度です。長期間でマイペースに学べ、無理せず仕事と大学院での学びが両立でき、じっくり時間をかけて学ぶことができます。

申請資格

- ・職業を有し、就業している者(正規雇用者に限らず、主として当該収入により生計を維持している者)で、著しく学習時間の制約を受ける者
- ・家事、育児、長期介護などにより、著しく学習時間の制約を受ける者

履修期間

3年又は4年のいずれか
(長期履修の開始時期は入学時点とし、学年の途中から開始することはできません。また、履修期間は延長できません。)

PROFESSIONAL'S VOICE

山本 孝子 教授

人生の物語を質的な立場から研究する際に、インタビューという手法を用いる場合があります。聴き手があり、その場の文脈に従って語り手が言葉を紡ぎ出す…、そこには「人は生きている現実を積極的に構成し意味を作り出す存在である」という人間観が存在します。その考え方は心理療法にも適用され、クライアントとカウンセラーが互いに語り聴くことによって、当初の否定的な物語が肯定的な物語へと作り直されていきます。共同で生み出されるダイナミックなプロセスにおける聴き手の役割は重要で、カウンセラーを目指す人にはマイクロカウンセリング技法の習熟に努力することはもちろんのこと、自身の生き方がそこに反映されることを常に意識して日々を送る真摯な姿勢が求められます。

本大学院で学び、私がナラティブ・セラピーやロゴセラピーを見つけたように、自分に合ったアプローチを見つけて公認心理師として専門的に活躍していけることを期待します。



野中 美幸 さん 大阪人間科学大学大学院
人間科学研究科 人間科学専攻 1年次生

STUDENT'S VOICE

私は大阪人間科学大学 人間科学部 医療心理学科 臨床発達心理専攻で4年間学び、心理学の面白さを感じながらも4年次には一般企業への就職も選択肢の一つとして考えていました。しかし、就職活動を進める中で心理職として資格を有して働きたい気持ちが大いに気づき、大学院に進学し公認心理師の資格を取得することに決めました。

大学院での講義は少人数で行われるので、質問や自らの意見を言いやすく、疑問点を解消しながら理解を深めることができます。そのため先生方との距離も近く、サポートを受けやすい環境があります。また、公認心理師取得のためには実習が多くありますが、実習先ごとに担当の先生がついてくださり気軽に相談することができます。

修士論文では、私が中学生の頃に誰にも悩みを打ち明けられずに辛かった経験から、「教員とスクールカウンセラーの連携」について研究しています。この研究をもとに将来教育現場で活躍できる公認心理師を目指して頑張ります。

大学院指導教員紹介

研究科長 大野 太郎 教授

ストレスマネジメント教育 | EAP | 産業カウンセリング | 非行犯罪臨床

ストレスマネジメントについて研究しています。ストレスは老若男女に共通するテーマですが、とりわけ学校教育と産業領域の精神衛生が主研究です。子どもたちへのストレスマネジメント教育や、働く人たちのストレス予防及びEAP (Employee Assistance Program、従業員支援プログラム)、産業カウンセリングの研究・実践を行ってきました。ストレスに強い子どもたち、ストレスを成長のチャンスにできる働く人たちの育成を目指す専門家になりましょう。

原田 正文 教授

精神科医療 | 児童・思春期

児童・思春期が専門の精神科臨床医です。最近では心の健康づくりという観点から子育て支援にも力を注いでいます。
主な研究分野は、①児童・思春期の精神保健、学校精神保健、②子育て支援・次世代育成支援・子ども虐待防止、③医療社会学です。

宮脇 稔 教授

医療心理学 | 病院臨床 | 精神保健

精神保健・医療関連における就労を目指す大学院生への臨床実習や実践指導を担当しています。公認心理師国家資格では、一般財団法人・日本心理研修センター (<http://shinri-kenshu.jp/>) の理事として、公認心理師の試験制度や運営にかかわり、試験の実施に携わっています。

山崎 康一郎 准教授

臨床心理学 | 社会的養護 | 障害児・者の心理と支援

児童福祉・障がい福祉領域において、保育士、社会福祉士、臨床心理士として知的障がい児(者)へのケアに携わり、心理と福祉による支援に関する研究を行っています。
特に、①被虐待経験のある知的障がい児への社会的養護におけるケア、②非行・犯罪行為のあった知的障がい者への非行・犯罪から離脱した地域生活の支援、③障害児通所支援におけるケア、について支援実践の中からテーマを見つけ、福祉の向上に貢献できるよう研究を進めています。

堤 俊彦 教授

児童臨床心理学 | 行動療法

専門は児童臨床心理学です。主となる活動は、幼児から思春期までの子どもを対象とする発達臨床です。人生早期の幼児期、学童期に不適応に陥り、生きづらさを抱える子どもが増えています。その多くに発達障がい疑われますが、障がいが原因と諦めるのではなく、不適応の原因は、物事を認識する力、あるいは人とかわかる力、または両方の遅れであると捉え、認知面と行動面からのアプローチによる心理的支援を行っています。

日上 耕司 教授

応用行動分析学 | 発達障がい | 禁煙支援

専門は応用行動分析学(ABA)で、発達障がい児(者)及びその家族や周辺の人々への支援が主な実践・研究のテーマです。ABAは単なる療育技法ではなく、独自の行動観に立脚する心理・行動科学の一領域である行動分析学の“応用領域”です。行動の原因は個体内にある“心(や意思)”ではなく、“心(や意思)”もまた行動であり、それらの原因は環境の側にあると捉える行動観に基づき、“個人攻撃の罠”に陥ることなく行動(心)のあらゆる問題の解決を目指します。

山本 孝子 教授

カウンセリング心理学

病理や問題ではなく個人の長所・強みに焦点を当てるカウンセリング心理学が専門です。様々な人生をマイクロカウンセリング技法(傾聴技法)を用いて聴き取り、語られたストーリーを「意味」を軸とした新たなストーリーに書き換えるアプローチ(ナラティブ・セラピーやロゴセラピーによる心理教育)の研究と臨床活動を行っています。

ACCESS MAP

